

# 山間地の水稲有機栽培における 障壁設置によるイネミズゾウムシ被害軽減効果

## 方法は？

畦畔から20～30cm内側に畦波シート等で田植前、または田植直後(代かき後から期間を開けない)に障壁を作ります。

障壁が邪魔で内側には行けないなあ...



成虫は畦畔から歩いたり、水面や水中を泳いだりして、水田の中へ入ることが多いです

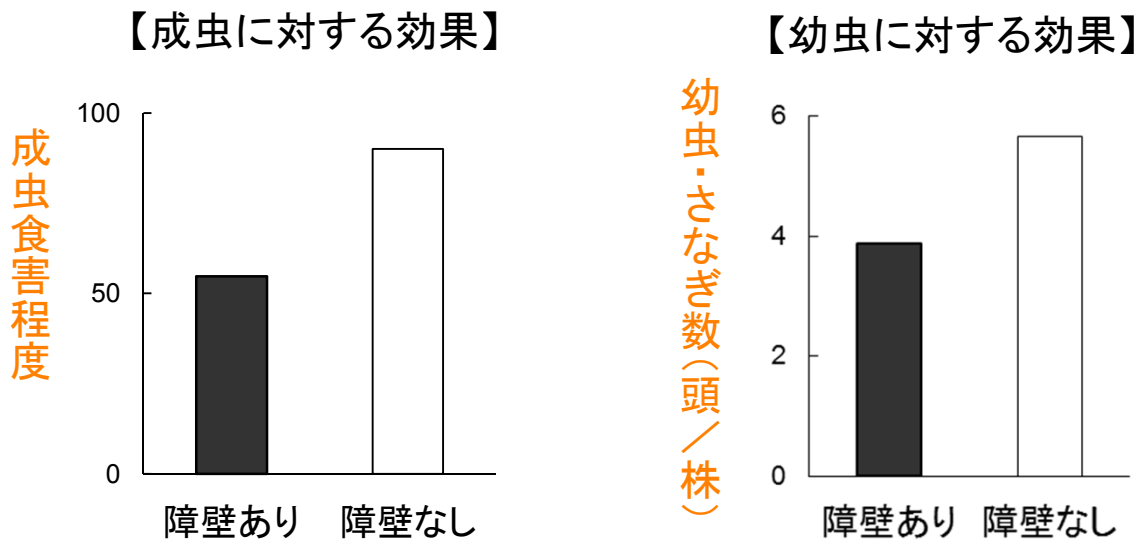
## 畦波シートの設置は機械で楽にできます

### 畦波シート埋設機(FS)

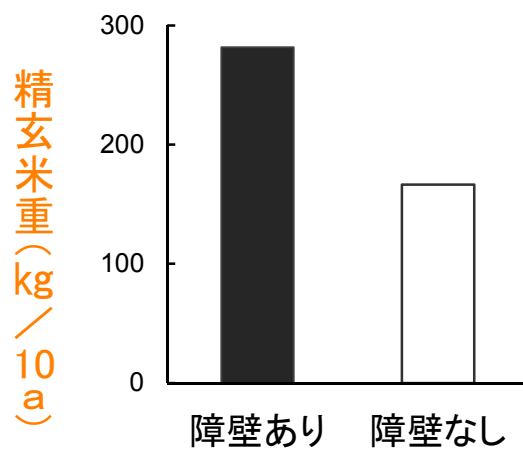
試験ほ場の畦波シート設置作業時間は約20～30分程度でした。  
(畦畔の長さ 約140m、2人で作業)



## 障壁の設置による イネミズゾウムシの被害減少効果(山間地)



## 障壁設置の有無による収量比較(山間地 有機ほ場)



### 【成果の活用面・注意点】

1. 成果の対象地域は**6月中旬以降移植の水稲栽培が困難である山間地等**です。
2. イネミズゾウムシ水田侵入後に畦畔板を設置した場合、効果は期待出来ないので、移植前か移植直後に設置して下さい。
3. 障壁には、イネミズゾウムシがよじ登れない素材のシートや板(あぜなみシート等)を使用して下さい。
4. 強風時には、設置した障壁が倒れる恐れがあるので、適宜対策を施して下さい。
5. この技術を初めて使う際には、農業試験場もしくは最寄りの農業改良普及所にご相談下さい。
6. この情報は「成果情報 2011-12」を基にした、山間地を対象にした情報です。

問い合わせ先

鳥取県農林総合研究所農業試験場 有機栽培技術開発・検証チーム(環境研究室)

TEL:0857-53-0721/FAX:0857-53-0723/E-mail:nogyoshiken@pref.tottori.jp

本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい